

いしずえ

礎

茨城県民間保育協議会青年部

第33回公益社団法人全国私立保育園連盟青年会議
茨城大会【平成25年10月29日(火)、30日(水)】

全国大会を終え

実行委員長 柳澤 克彦
(国分台ふたば保育園 いしおかブロック)

この度は、第33回公益社団法人全国私立保育園連盟青年会議茨城大会に、遠方、近隣より440名もの多くの先生方にご参加をいただき、誠にありがとうございました。

今大会は、昭和56年の第1回大会以来、初めて茨城の地において開催される全国大会であり、実行委員会といたしましては、2年前よりこれまでの間、総力を挙げて、この大会の開催準備に取り組んでまいりました。

そして、茨城の保育に携わる先人達、豊田英雄氏、渡辺嘉重氏を基に『集え友よ！学舎に～茨城から発信 保育の原点～』のテーマのもとに開催させていただきました。

第1日目の特別講演では、『日本における保母第一号 豊田英雄氏』の曾孫にあたる高橋清賀子様に、この大会にふさわしい、当時の保育事情を振り返り、保育の原点に触れ、現代の保育につながる内容も含めご登壇いただきました。講演は主催者としても、とても心強く考えさせられる点多くありました。

また、各分科会の講師の方々も熱心にそれぞれの先生方の持っている知識、情報を参加者へ提供していただき、実のあるものとなりました。

第2日目には、過酷な日程のなか都合付けていただいた、茨城県出身でもある『石井竜也氏』にご登壇いただきました。予定より大幅に時間を過ぎながらも、話が盛り上がり、とても貴重なひと時を参加者と共に過ごさせていただきました。

この2日間は保育に携わる仲間たちが集い、「保育の原点」を研鑽し、親睦を深めることができました。そして、かけがえのない日本の子どもたちへ今を輝きあえる理想の保育を提供するために学び合える研修会となりましたことは、本当にご参会いただいた方々に心から感謝申し上げます。

今後も、私たち公益社団法人全国私立保育園連盟青年会議の活動にご理解、ご協力の程をよろしくお願い申し上げます。

最後に、あたたかく見守って下さった茨城県民間保育協議会の先生方、関係諸団体の皆さま、そして大会にご参加いただいた皆様には、心から厚く御礼申し上げます。

今号の「礎」

- ・全国私立保育園連盟茨城大会（御礼）
- ・茨城大会特別講演報告、分科会報告
- ・特別委員会石川県保育士就職説明会視察報告
- ・新入会員紹介





準備に余念がありません。



記念講演は石井竜也氏



交流会では我武者屋応援団が来てくれました。



くずのみ先生のお話しも好評でした。



茨城大会、大成功！
ご協力感謝いたします。



うっくんと貴門さま
中は当然、実行委員です！



皆、個人個人が与えられた役割をこなし大会を成功に導きました。



えいえい、おー！



??? ぼうずあたまが輪揃い



一致団結が何よりの財産となりました。

大会の御礼とご報告

本会青年部の皆様におかれましては、『第33回私保連青年会議茨城大会』の運営にご協力を頂き誠に有難うございました。

今大会は、柳澤実行委員長のお熱血あふれる主導の元に青年部員一人ひとりが大きな達成感を持って終える事の出来た、と同時にこれからの青年部活動に大きな影響力を与えてくれるとても意味のある大きな事業であったと捉えております。

大会期間は『二日間』。その準備に要した期間は『二年間』。この二年間は、当然通常の青年部活動では経験出来ないとても充実した二年間でありました。そして大会を終えた今、参加者を“おもてなし”するために用意をした皆さん一人ひとりの『真心』が、我々青年部の“わ(和・環・輪)”となりその真心の倍以上になって返ってきたような気がしてなりません。今大会を通して更に深まった絆。それらを活かして今後の青年部活動へのご協力もこれまで以上にどうぞ宜しくお願い致します。

茨城県民間保育協議会青年部部長
藤崎 貴英 (北浦保育園・いなほブロック)

最後とはなりますが、今大会が大成功裏に終えることができましたのも、茨城県民間保育協議会に加盟をされます諸先生方のお陰であります。今後とも我々青年部への更なるご指導、ご鞭撻を頂けます事をお願い致しながら、御礼と御報告に代えさせていただきます。

茨城大会は多くの方の
参加をいただき、
無事成功いたしました。
関係各位の皆さまに
感謝申し上げます。



茨城大会報告 特別記念講演

テーマ 「日本の保姆第一号といわれる豊田英雄
～その生涯が語る事々」

講師：高橋清賀子氏

講師プロフィール

1940年水戸市生まれ。
豊田英雄ひ孫・保育士研究者・史料所蔵者
私立幼稚園、東京都立小学校教諭、保育者養成校非常勤講師
2011年日本保育学会保育学文献賞受賞



講演会概略

1874年、文部省が「育幼の責に任する者を養成する」ことを目的とする女子師範学校（現御茶の水女子大学）を設立し、全国から十余名が抜擢されたが、その一人が豊田英雄である。その後、東京女子師範学校附属幼稚園が開設され、「母親の心得」を講演、教員、寄宿舎監を兼ね、ドイツ人保姆、松野クララが語るドイツのフレーベルの保育理論を関信三、近藤浜と共に学び、日々の保育に取り組む。その後、鹿児島で日本で二箇所めとなる幼稚園開園に尽力、欧州の幼児教育事情を視察後、栃木、茨城の女学校でも采配をふるう。

1925年には、大成女子学校（現茨城女子短期大学）校長、1935年には小太郎の墓を京都から水戸へ移す。90代になってもなお教壇に立ち、93歳のときにはヘレン・ケラーを水戸駅に迎える。1941年、97歳で死去。

豊田英雄が考える教育の基本は、母親がしっかりとした教養、人間性をもち、家庭が中心となって立派な子どもを育てることである。そして幼児の教育は国の発展につながると確信していた。また、フレーベルの教育理論をもとに、「恩物の使用」、「五感の重視」、「遊戯による教育」、「想像力の育成」を軸とする教育を行った。

後進の育成にあたっては、「春霞の朗々たる如く、精神常に爽快に」と保育者の心構えをとおられた。女子教育・女性の地位向上につとめ、「子女、生まれながらの教師は、母親なり」と幼児教育における母親の役割、権限を強く認識していた。

名家に生まれながらも、父親の入牢、両親を早くに亡くし、夫の暗殺など多くの苦難に見舞われながらも、江戸末期、明治初期の動乱の時代を前向きに強く生き抜いていったこと、そして、そのような中でも常に学び自己を高めていこうとする豊田英雄の姿に、人間として感銘を受け学ぶべきことが多くあった。

高橋先生は、豊田英雄のひ孫ということもあり、高橋先生のお話の中から豊田英雄のお人柄、志を感じることができ、現在幼児教育に携わる者として、その責任の重さに身の引き締まる思いを新たにしました。

高橋先生ご自身からも、お話を聞いていて、豊田英雄と重なる凛とした美しさと、常に学んでいこうという姿勢を感じた。そして、この講演を通じ、茨城県にこのような立派な先人がおられたことを再認識し、とても誇らしく思われた。豊田英雄を顕彰し、次代に語りつけていくことが、保育界全体にとっても大切であると考えた。（長谷川）



豊田 英雄 (子)

出生地：水戸市
1845年～1941年（和暦：弘化2年～昭和16年）
女子高等教育の先駆者、日本の幼稚園教育の開拓者
東京女子師範学校の教員として上京。翌年、附属幼稚園が開設されるとその保姆となり、日本の保姆第一号となった。その後ヨーロッパに留学し女子教育を学ぶ。帰国後は、各府県において初等・中等教育に従事した。「女が女の特性を発揮させ、良妻賢母になるために高等教育が必要」と説き、生涯にわたり教育者として道を切り開いた。

茨城新聞

豊田英雄の生涯を紹介

水戸で全国保育園会議
全国私立保育園連盟
青年会議の茨城大会が
10月29、30の両日、水戸市千波町の水戸プラザホテルで開かれ、全国から約440人の保育園関係者が集い、保育に関わるさまざまなテーマで意見交換した。

開会式で、大会実行委員長の柳沢克彦さんが「茨城は保姆第一号と言われる女子教育の先駆者・豊田英雄など



多くの教育実践家が道を開いてきた。保育の原点を学び、子どもが輝く理想の保育を目指したい」とあいさつした。

続いて記念講演が行われ、豊田英雄のひ孫で保育史研究家の高橋清賀子さんが英雄の生涯を紹介した。

高橋さんは、英雄が東京女子師範学校に採用された際の辞令や、日本で最初の保姆となった同付属幼稚園での模様を描いた絵図を映しながら「手作り色紙を用意し、教材は自分たちで開発していた」と語ったほか、園庭に多様な樹木を植えて情緒教育に役立てたなど、英雄の教育の一端を説明した。

茨城大会報告 第二分科会

テーマ 「幼児教育の原点から学ぶ」

講師：野口芳宏氏

講師プロフィール

昭和11年 千葉県君津市生まれ。
昭和38年 千葉大学教育学部付属小教諭
平成 4年 木更津市立請西小、岩根小各校長
平成 8年 北海道教育大学教授
平成25年 植草学園大学名誉教授



分科会概要

冒頭、保育所・園も広義で言えば「教育の機関」ということで、何の為に教育をするのか。何が「目的」なのか。という疑問をキーワードに講義がスタートした。このキーワードに対して講義に参加した先生方も大部分は、「素晴らしい大人にする為。」「社会で働くことのできるようにすること。」など、漠然とした答えが多く聞かれた。野口先生は、それらは各先生が自分の考える「目標」であり、「目的」では無い。目標とは下位概念でありいくつ立てても良いもの、目的とは上位概念であり、変わったり、ブレてはいけなものであること。また、そのことを理解している教育者も少数であり、今に追われどこに向かえばよいのか不透明な為に、努力をしている割に成果が出ないという実態があるとおっしゃられた。

では、教育の目的とは何なのかということなのだが、すべては国家が「教育基本法」で定めおり、幼児・児童・生徒・学生・家庭教育・社会教育すべての教育がそこに向かっていかなければならないということだった。そこで下記の条文を3つに分けて丁寧に説明をして頂いた。

「教育基本法」

- 第1条 ①教育は、人格の完成めざし、
②平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質をそなえた
③心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。

①人格の完成は難しく常に目指し続けなければならないものである。「三つ子の魂百までも」という言葉があるが、幼児のときの教育がすべてではなく、「三つ子の魂三つまで」つまり、3歳には3歳の教育を、4才には4歳の教育、50歳には50歳の教育をする。この為に生涯学習たる所以がある。

②この思想は公人（皆のために役に立つ人間）を育てるということであり、これが教育を考える中で肝心なことである。近年では時代の流れと共にこの本質を忘れ、個性の尊重や個性重視の考え方に変わってきてしまっている。その結果、各保育園でも「個性を重視しています」と言わざるを得ない状態となってしまっている。また、個性の尊重、個性重視の教育を進めるのならば、教育の場へは行かないほうが良いということになってしまう。個性重視の教育を進めていくのならば個性は伸びるが国家及び社会の形成者として必要な資質は備わず、国家、社会は崩れていってしまう。国家及び社会の形成者として必要な資質を備えることが揺らいではいけないところであり、その為に教育を行うのである。

近年では個性重視と言い、自由保育（なるべく子どもを自由にさせる。子どもが気づく）をうたい、わがままを育てている園も多数存在する。実際問題子どもたちだけで気づくのは難しく、気づかないから先生がいて気づかせるのである。哲学者 カント の言葉に「人は人によって人になる」という言葉あるように前者の人は動物としての人、後者の人は社会性のある人、そして間の人（動物としての人と社会性のある人の間をつなぐ人）こそが教育者なのである。この繰り返しによって良い社会を作り、発展していくことができるのである。

③現在どこの教育の場所においてもこの原点が忘れられてしまっている。故に現在の教育の成果が実らない原因であり、教育者は日本の国民を育てているということを忘れてはいけないのである。しかし、教育者自身が日本のことを良くわかっていないという問題もある。例えば日本の正式名称（日本国）や国旗の正式名称（日章旗）などが分からないのである。

野口先生は現在の教育のあり方を考え、改めて①～③の条文の意味を理解し、今日までの教育が良かったのか振り返る必要があると提唱され、個性の重視については、常識や妥当性・一般性を育てることで個々の個性が育ち、それが幼児教育の場で必要なことであると締めくくった。

最後に感想として、現在保育者を含め私たちはとても忙しい日々の毎日で、どこに向かって進んでいるのか、いつ休むのか、いつ大きく進めば良いのかの区別もつかず年中忙しく保育に勤しんでいる。そんな中だからこそ今、少し立ち止まり、今やっていることは正しいことなのか、間違っているのか考え、長い目で見る必要があるのではないかと考えさせられる講話であった。

※お断り：ページ数の関係で分科会は第二分科会のみ掲載いたしました。

（藤枝）

※茨城大会につきましては、全私保連「保育通信」12月号に速報が掲載されています。
また、2月号には分科会の詳細を含めた報告が掲載されます。

保育士確保に向けて！

平成29年には、7万人の保育士不足が見込まれています。

視察隊メンバー
青年部長 藤崎貴英
特別委員会 松山圭一郎 新井平
中山天公 佐藤昌彦

石川県の保育士職場合同説明会を視察してきました。 by 特別委員会



私たち青年部特別委員会は8月31日（土）に石川県金沢市で行われた日本保育協会石川県支部主催の「養成施設学生向け保育所説明会」の視察に行って参りました。

これは32号の「礎」でも事業計画を掲載させて頂きましたが、昨今の保育士不足の解消並びに学生とのミスマッチの軽減を目的とした「（仮称）茨城県内法人合同就職セミナー」開催に向けた勉強会として視察してきました。【報告者 特別委員会委員長 松山圭一郎】



保育士職場合同説明会の概要（石川県8月開催）

主催者の目的

- ・県内私立保育園での新卒保育士（第二新卒含む）の確保
- ・普段、なかなか施設を訪れる機会のない学生に対して、各施設での日頃の保育に対する取り組みや施設の状況等を紹介すること

規模

- ・参加施設数44園（7市町村）、学生参加者数は200人超

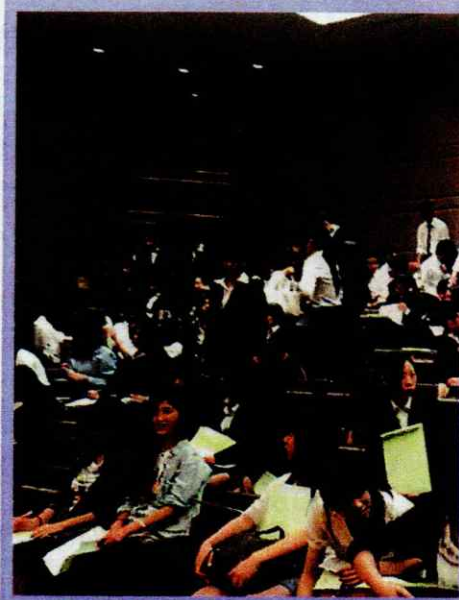
内容

- ・講師に、網野武博・武蔵野大学客員教授、並びに高辻千恵・東京家政大学家政学部児童学科准教授をお招きし、講演とパネルディスカッション

各保育所説明会

合同説明会は昼食休憩を挟みながら行われ、講演やパネルディスカッションを入れることで、学生も参加しやすい雰囲気で行われていました。各保育園の説明会ブースでは各々趣向を凝らし、園の特徴や保育方針などを学生に分かりやすく説明をしていました。学生も興味のある保育園を数箇所ずつ回り、真剣な様子で説明を聞いていました。また、男子学生も全体の1割近く参加していたようでした。

残念だったこと：講演中に寝てしまっている学生がいたのが気になりました。見られているという意識が学生側に少し欠けていたようです。



合同説明会に集まった学生たちなごやかな雰囲気でした。

学生の感想を聞いてきました。

- ・保育園ごとに保育内容が違うことが良く分かった。
- ・これから実習へ行く保育園への不安が解消された。
- ・セミナー開催は8月だと4年生は問題ないが、3年生だと実習と重なり厳しい。

県の担当者インタビュー

- ・保育園団体側との考えがタイミングよくマッチし、予算を組むことができた。
- ・石川県は待機児童がないので、保育士確保の為に取り組みに力を注いだ。
- ・養成校との連携が初めて図ることが出来たので良かった。

視察をして感じたこと、茨城での開催に向けて

今回視察をします率直に、セミナー開催へのイメージを膨らませることができました。段取りの手段が見えたことが一番の成果でした。参加学生の有意義そうな笑顔も実現に向けての糧となりました。

また、セミナーとは直接関係ありませんが、地元の子育て中の母親との即席子育て相談会や日本保育協会石川県支部の方々との情報交換会によって地域ならではの考えや、置かれた状況などをお聞きすることができ、更に有意義な石川訪問となりました。

保育士就職セミナーの必要性（まとめ）

首都圏を中心に爆発的に保育園等が増える中、茨城県内でも保育士不足が顕著に表れています。また、就職したけれどミスマッチによってすぐにリタイアしてしまう学生も少なくありません。

このような現状の中で、茨城県内にも素晴らしい保育園が多数あることや地元で働くことの良さ、自分の保育観に極力近い保育園を知ってもらうためにこの事業は必要だと確信しています。そして、この事業をきっかけに保育園同士も切磋琢磨することで全体のレベルアップに繋がるのではないのでしょうか。

課題は学生のニーズにマッチした且つ、公平な開催場所の選定や資金繰り、養成校との調整、行政機関との連携など山積しておりますが、皆で協力しながら形にしていければと考えております。今後、具体的に茨城県での開催が計画された折にはご支援賜りますようよろしくお願いいたします。



各ブースで熱心に耳を傾ける学生

※視察参加に際しましては青年部長である藤崎先生のご尽力により、このような機会を設けることが出来ました。この場をお借りして御礼申し上げます。

■新入会員の紹介■

今年度から茨城県民間保育協議会青年部に入会されたフレッシュな会員を紹介します。

調査委員会 滝田 昌弘（つくば保育園 筑西ブロック）

今年度より青年部に入会しました、滝田昌弘です。青年部の活動を通して、保育の過去・現在・未来を考え、これからの幼児教育の役割や在り方をいろいろな角度から研究していきたいと思っております。今後とも、よろしくお願い致します。

爽やかな好青年！茨城大会ではいやな顔せず急遽、筑西市のマスコットキャラクターである「ちっくん」になりきり、参加者への最高の、お・も・て・な・し！をしてくれました。これからの活躍が楽しみです。



調査委員会 渡辺 謙（泉ヶ丘保育園 いしおかブロック）

今年度から青年部に加入させていただきました。石岡市にございます、泉ヶ丘保育園の渡辺謙と申します。青年部の先輩方のもと日々勉強し、青年部の一員として微力ながら部のお役に立てるように頑張っていきたいと考えております。よろしくお願い致します。

石岡のラストサムライを想像させる礼儀正しい青年。趣味はドライブ。好きな食べ物はお菓子！スイーツに囲まれながら、いつまでそのスリムな体型を維持できるかな？保育園に勤務して4年目でただ今修行中です。



調査委員会 雨谷 鉄平（いばらき中央保育園 県央ブロック）

この度は、青年部へのお誘いをいただくとともに、大きな行事を控えているのにも関わらず、親切に色々とお教えいただき本当にありがとうございます。これから一生懸命がんばりますので、よろしくお願い致します。

いばらき少年剣友会で子どもたちに剣道を指導している剣豪。昨年までは法人内の幼稚園の手伝いをされていたようです。10月の茨城大会では第二分科会の責任者に大抜擢。さわやかな笑顔できっちり分科会を取り仕切っていました。



採用活動セミナーに参加してきました。

広報委員会より

「礎」の記事で紹介しましたが、現在、青年部特別委員会では県内で保育士採用合同説明会の開催を検討しています。

先日、この合同説明会の参考になればと思い、都内で開かれた保育園経営者向けの保育士採用活動セミナーに参加してきました。昨今、どの保育園でも保育士採用の苦労話が話題になります。これにこたえる形で企画されたセミナーですが、冒頭で講師が一番最初に話された言葉が意外でした。

それは、「何よりも大切なことは、今いる職員に注目し、辞めさせないこと」採用のノウハウを聞けるかと思っていたところにこの言葉でしたので、少々あっけにとられたのですが、確かに採用より大事なこと。講師はこの職員への働きかけを消極的採用活動とおっしゃっていました。

話しの中で、今いる職員に注目するための必要なことをいくつか話されていましたが、そのうち3つを紹介すると

- ・職員との個人面談を年3回は行う。
- ・職場のトラブルの早期発見、早期解決
- ・現場の不合理の発見に努める（現場でしかわからないことの発見）



この他にも、当然、採用活動のテクニックや、養成校の本音、もっと具体的には「採用面接に来た学生に交通費を出すべきか」などの話しを聞いてきました。機会がありましたら紹介したいと思います（広報委員会 N）。

青年部とは…

茨城県民間保育協議会の下部組織で、県内の民間保育園共通の問題解決を図り、保育事業の刷新と振興を促進することを目的としています。そのなかで青年の自由な発想を發揮することを期待されている団体です。現在会員は約60名。それぞれの委員会に分かれて日々活動しています。

「礎」とは…

「礎」は青年部活動の広報誌として茨城県内の全保育所に配布しています。

ご意見などありましたら以下のアドレスへお願いします。

→メールアドレス
[sashima@dreams.ne.jp]